

令和元年度

事業所名： グループホーム ほっともとみや2階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	グループホーム ほっともとみや2階		
所在地	020-0866 盛岡市本宮6-14-12		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り、芋の子会、敬老会、忘年会など、各行事にご家族、地域の方々を呼び、利用者と一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している。 ・近隣住民とともに避難訓練をするなど、地域との交流がある。 ・身体拘束をしない取り組みにも力を入れている。 ・利用者との信頼関係を大切にし、一人ひとりが自由に生活できる支援をしている。 ・レクリエーションの提供が充実している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0390100022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

都市開発振興住宅地内の一角に瀟洒な2階建て民家風家屋の2ユニットで運営し、近隣には病院やショッピングセンター、公園もある暮らしやすい環境に立地している。理念に【「和・輪・話」喜び、悲しみを共にし、助け合いながら笑いのある生活】を掲げ、職員・利用者共に、ほっ！とできる家を実践している。町内会に加入し運営推進委員の協力も得て地域活動に積極的に参加し、ホームの夏祭りや敬老会等でも地域住民との交流が行われ定着している。二階への登降階段利用も、心配りで安全に配慮しながら利用者の行動を拘束しないを共有している。当ホームは入居者の生涯安住の家を目指して、終の棲家として希望する方には、かかりつけ医や訪問診療医の協力の下に終末期利用者に寄り添い開設以来多くの利用者の看取りが行われ、利用者・家族の安寧と安心に繋げ前進している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ほっともとみや2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに掲示し、常に目に入るようにしている。会議の資料にも掲載し、理念を念頭に置いて支援している。	理念は各ユニットのリビングに掲示確認しながら、利用者の笑顔や来訪者の状況等と照らし合わせて、ミーティングや定例会議で話し合いながら振り返りをしている。苦しみ、葛藤を抱えている方には、人生の中で一番輝いていた年代を思い出させる話題を提供し、心のしこりを和らげるように努め「共に喜び共に悲しみ助け合い」の理念に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、施設の行事にも参加して頂いている。絵本の読み聞かせは毎月いらして下さっている。医療機関も地域内で利用させて頂いている。	町内会に加入し、回覧板(情報)もまわり地域の行事にも参加している。町内の夏祭りに今年は16名が参加し「くじ引き」や触れ合いを楽しみ、ホームの夏祭りでは歌や踊りのボランティアも来訪し家族や近所の方々と交流し楽しんでいる。絵本の読み聞かせボランティアの定期訪問、中学生の福祉体験、支援学校生徒の受入れ交流も行なわれている。地域の老人クラブ活動にリハビリ体操の指導者として職員を派遣している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の福祉体験の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々から貴重な意見や提案を頂き、期待を持たれていることが職員の励みとなりサービスの向上につながっている。民生委員等を通じて、他施設の活動について情報交換ができています。	2地区の各行政区長や民生委員、家族の代表者を委員に依頼し隔月に開催している。時には敬老会と併せて利用者の声や雰囲気に触れ具体的な提言をいただいている。会議では地域の行事や情報を戴き、夏祭りに参加したりホームの状況を報告しながら防災訓練への参加も得て、感想・意見を戴き運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者が参加し、その場で意見交換をしている。	担当職員は運営推進会議の委員として会議に参加している。ホーム職員も制度改正の説明会や研修会に参加して話しやすい関係にある。入居者の実情に応じ制度の利用について相談し生活保護受給や成年後見制度の活用等助言を得ている。今後地域相談室の開設を計画しており更に連携を強化したいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみしている。身体拘束に関しては研修や会議を通して情報共有している。研修でのアンケートを活用し、言葉使いにも気を付けるよう、取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月事に開催し適正化について研修や会議で学び再確認しながら拘束のない支援に努めている。2階への登降階段の利用は見守り付添い支援で行動制限をしないように共有している。ヒヤリハットには原因を究明し未然防止に努めている。3名の転倒不安のある方は夜間のみ離床センサーを補助として利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、全職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を設けている。成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時に家族や後見人に説明し、納得の上でご利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族から意見を頂いたり、面会時に要望を伺っている。	事業所の情報紙「和・笑・輪」通信を家族や後見人に送付しており、行事や面会来所時には感想も含め要望意見を聴くように努めている。熱中症対策にエアコンを設置してほしいとの要望があり取りいれている。利用者の「お酒所望」のつぶやきにノンアルコールビールで応えることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングなどで意見を出し合い、反映させている。	管理者は毎日のミーティングや毎月の定例会議で職員の要望・意見を聴いている。事業所内で解決困難な課題は本部の福祉部会に諮っており、今年度は職員の特定処遇改善の充実に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望、意見を聞き、環境や条件の施帯に努めて下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会議や研修に参加し、同業者グループワークを通じて意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に笑顔で接し、本人や家族と対話する時間を多く取り、信頼関係を築けるようにしている。自分から話せない方には、状況に応じて声をかけ、安心してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望をしっかりと聞き、出来る限りの対応を心掛けていく。面会時に最近の様子を伝えて情報交換を行い、その中で家族の願いを受け止めて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族への聞き取りを行ない、当施設が希望に対して支援していける内容k検討し、対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に生活をし、食事作りや洗濯など手伝ってもらうことでお互い支え合っている。ただ、「高齢者」「認知症の人」とだけ捉えず、できることを探して一緒に行なう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関の受診の同行を家族にして頂き、本人の状態を把握してもらう。ここでの生活の様子を詳しく伝え、共有した上でより良いサービスに繋げていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院への通院が続けられる。面会、家族との外出や外食、電話をかけた受けたりできる。	馴染みの病院受診、趣味の仲間や友人との付き合い等が継続できるように支援している。詩吟や手芸サークルに参加している方や毎年のいとこ会に出かけている利用者もいる。入居後にボランティアの方々との新たな馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作品作りで、関わりを持ち孤立しないようにしている。話の合う利用者同士の関係も大事にし、必要に応じてコミュニケーションが取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了した家族が顔を見せに来てくださったたり、野菜を持って来て下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の思いや意見を聞いたり、表情を観察、記録し、会議で話合っている。また、普段の何気ない会話から希望を聞き取り、スタッフ間で共有している。	定期的なカンファレンスにより、利用者のこれまでの生活に寄り添った対応に心がけている。利用者とは居室や落ちついた環境で時には入浴時の開放的な場でアイコンタクトを取りながら話しかけている。入居後、不穏・不機嫌落ちつかない利用者の心情は郷里への募る思いであることを知り、職員が話し合い話題を共有して支援を継続し精神安定に繋げることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要な情報を以前入所していた施設や家族、サマリーなどから集め、どのような環境で育ったのか把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録し、朝夕の申し送りで報告している。会議で本人の現状についても話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで振り返りをしながら、他職種と連携して支援内容を検討し、現状に沿った計画書を先性している。	モニタリング、家族の要望意見、事業所の申し送りや日誌を参考にカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直しとしているが介護度や状態の変化に応じ随時見直しもしている。趣味や掃除、食卓の配膳等日常の役割、食事内容の変化などきめ細やかなプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発言、支援内容の実施、本人の反応、かかりつけ医、訪問看護からの助言などを記録し、カンファレンスで情報を共有、意見交換し、計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問理美容などを取り入れている。 朝起きられない利用者は、起床時間をずらすなど、柔軟に対応している。 緊急時にも迅速に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生や支援学校の実習生、訪問理美容、コーラス、絵本の読み聞かせ、寿司屋、大道芸の方々に協力頂いて楽しむ機会を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添ってかかりつけ医を継続、決定している。納得されたかかりつけ医と本人、家族情報交換し、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医受診は家族同伴7名で他は月1回の訪問診療を利用している。精神科や皮膚科等他科の受診も家族同伴は同様であり、他利用者の家族対応困難時は職員が同行することもある。訪問歯科受診の利用者は3名、訪問看護ステーションと契約し週1回の利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しており、日常の医療相談や報告を行ない、アドバイスをもらっている。緊急時の対応もして頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院先へ情報提供し、連携を図っている。それにより、関係作りにも努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が重度になったとき、ケアプランの説明や面会時に本人の変化について説明を行なう。	かかりつけ医や訪問診療・訪問看護等医療との連携体制は確立しており、希望する方の終の棲家として開設以来多くの方の看取りを経験している。入居時に意向を話し合い確認し、状態の変化に応じて再度意向と方針を医療や家族・関係者と相談しながら適切に対応している。職員は研修や実践を通じて学びを深め家族の信頼に応えており、現在も3名の看取り介護に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には訪問看護へ連絡し、指示を受けて対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。消防署、町内会長、民生委員、近隣住民に参加していただき、御意見をいただいた。	防災避難訓練は毎年2回以上行なっている。地域の区長や民生委員を非常時の協力者として依頼し連絡先に登録、訓練にも参加し助言を載している。2階外付け非常階段利用時の安全な避難方法・手段を検討している。ハザードマップ対象地域外にあるが今年度は水害想定での垂直避難訓練を実施した、食料や日常必需品は1週間程度備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を理解し、その人に合った対応を心掛けている。 同じ目線に立ち、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮している。	利用者への声かけは同じ目の高さで行う、言葉遣いは丁寧に、自尊心を傷つけないようにを共有している。床のモップ作業時は立位困難な方には椅子に腰かけた状態で手伝っていただくなど状態や能力に合わせた支援に配慮している。入浴排泄介助時は羞恥心を損なわないように心配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを尊重し、できる限り自己決定してもらっている。 無理強いはしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性を大切にし、その時の思いや願いに沿った支援を行なっている。 一人一人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を定期的に取り入れている。 季節に合った服装の支援や服の乱れを確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、片づけなど、できることを一緒に行かない、メニュー作成時には希望を取り入れるなど食事が楽しくなるような支援をしている。	献立づくりや調理は職員が交代で行っている。彼岸団子、雛饅頭、芋の子会など季節や四季折々の行事食を取入れている。一人ひとりの誕生日には好みやリクエストに応え寿司やラーメンも準備し、手づくりケーキで楽しく賑やかな食卓を演出している。配膳・下膳、食器拭きなど職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は3度の食のほかに10時、15時と希望時に提供している。野菜、肉、魚などバランスの良い食事の提供をしている。ミキサーや刻み食にも個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの声掛けをしている。介助が必要な方には介助にて清潔を保つよう支援している。 定期的な訪問歯科、歯科検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのできる事や体調、生活リズムを把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう誘導、介助している。	利用者の生活リズムを把握しトイレでの排泄を基本に声掛け誘導支援をしている。9名がリハビリ等排泄補助用品を利用しながら自立に近く、寝たきりでオムツを利用している方が3名いる。夜間のポータブルトイレは1名の方が利用している。繰り返しの誘導支援により失敗の回数が少なくなってきた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供している。体操や食物繊維の多い食事の提供をしている。 毎日排便チェック表で確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は若干の制限があるが、それ以外は利用者それぞれの希望を受け、スタッフと一対一の会話を大切にしながら、気持ちよく入浴していただけるよう努力している。	風呂は毎日準備している。入浴は午後の時間帯で週2～3回を目途に入浴支援をしている。時々拒否する方には清潔保持も勘案し声掛けのタイミングを工夫しながら同意のものと入浴支援に努めている。職員との楽しいな会話を通じた支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見ながら昼寝や休息が必要な方には、居室やソファで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイリングし、いつでも確認できるようにしている。変化があった際は記録に残し、主治医や薬剤師に速やかに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなどそれぞれの活動の中で自分の役割を持っている。嗜好品や趣味など楽しんで頂けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い、選挙の投票に行った。 ご家族との外出や外食、季節ごとのドライブに行けるよう支援している。	季節ごとに小岩井農場の花見や矢巾のひまわり畑の見物にドライブがてら出かけている。日常的にはウッドデッキやベランダでの日光浴、玄関わきの金魚鉢への餌やり、近くの公園や東屋まで散歩をしているが、散歩の頻度は少なくなっている。外食や買い物に家族と出かけている利用者もいる。	利用者の日常生活における気分転換やストレス発散には、こまめに戸外の風や陽の光を五感で浴びる刺激がリハビリ効果と活力に繋がるものと思われず。利用者の状態を勘案しながら、より積極的かつ定期的な散歩を日課に組み込むなど戸外に出かける工夫を更に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心のために財布を持っている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、いつでも電話が掛けられるようにしている。 手紙や贈り物が届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、光は強くないように管理している。共用空間の清潔を心掛け、季節感を取り入れた装飾をしている。共用空間には歩行に支障をきたすものは置かないようにしている。	共用スペースには、食卓テーブル、椅子、ソファなどが配置され天窓から自然光を取り入れた明るい環境となっている。壁面には利用者と共に作成した大きなカレンダーや貼り絵の装飾などが飾られ、安全でホットできる過ごしやすい環境となっている。。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、思い思いに好きな場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して落ち着いた生活ができるよう支援している。	各居室には、ベッド、クローゼット、蓄熱式暖房機、窓にはカーテンが備えつけられている。夫々に、テレビや衣装ケース、家族写真などが整然と置かれ、明るく落ちつける生活空間になっている。親族の位牌を持参し礼拝している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をかけ、手すりやエレベーターを利用し、自立した行動を促している。迷っているときは職員が誘導を行ない、安全に生活が送れるよう支援している。		